

地域支援センター うじだより

No3

平成23年9月22日発行

「子どもの見方教室」「校内研修」の報告

～支援のヒントは校内にある～

夏季休業中に「子どもの見方教室」連続4回講座を開きました。今回は就学前の子どもの発達や体に焦点を絞ったところ、3幼稚園2保育園6小学校その他から、のべ80名の先生方が参加してくださいました。初回の作業療法士の濱瀬先生の講義では、遊びの中で育てることやいろいろな感覚について、就学に向けて手の機能の発達について、2回目以降はセンターうじの専任コーディネーターが新版K式検査を参考にしながら子どもの見方や成長の過程についてビデオを使用しながら研修をすすめました。全般的に「わかりやすかった」「学ぶところが多かった」という感想を多くいただきましたが、実際の事例や支援の仕方、接し方を学びたいという意見もありました。今後の内容として検討します。



夏季休業中に依頼を受けた校内研修会

8月23日 榎島中「模擬巡回相談から事例を考える」

8月24日 御蔵山小「障害の基礎理解と事例研修会」

8月25日 大開小「事例研修会」

8月31日 笠取第二小「自閉症スペクトラムの児童の理解と事例研修会」

傾向としては、特性の基礎的な知識をベースに、目の前にいる児童を例に、子どもを見る視点や具体的な支援と一緒に考えてほしいという研修が多くなりました。担任の先生をはじめ、校内の先生方から活発な意見をいただき、「支援のヒントは校内にある」ということを改めて実感しました。



今後の研修支援として

9月14日 岡屋小「低学年から中学年の児童の発達と大事なことについて」

10月24日 西大久保小「発達障害の特性と支援の手立てについてと事例研修会」

11月以降 笠取小 を予定しています。

宇治市特別支援教育総合推進事業運営協議会(7月27日)

城陽市特別支援教育総合推進事業運営協議会(8月29日)を実施しました。

市毎に会議を持ちました。

宇治市では教育相談という形ですべての保護者に就学相談の案内を配布していること。

相談員の力量を上げることが課題であること。

支援ファイルは昨年度(十数例)小学校へ引き継がれたが、個別の指導計画に書き込み、一貫した支援を作っていくことが大事だということ。

中学校の特別支援学級の生徒が高校進学した後の支援や福祉サイドの支援になりにくいケース等がだされ、継続的に手がかりになる記録があることによりアプローチの方法が探れるという御意見もいただきました。



城陽市では、今年度から支援ファイルの取組をサンプリング方式で始めたことが大きな話題でした。

各ライフステージにおける個の支援の難しさについて話をいただきました。

各市における取組の中で今年度開校の宇治支援学校の地域支援センターがどのような役割を担えるのかを考えながら今後も具体的な取り組みを進めていきます。